

思わず、ニンマリさせられてしまうほど、取り合わせのおもしろさが光る一句である。「ひとつひとつ」という語に來し方の一句の骨格を捉えた上で、笑いじわがなんとなく妙味があります。笑いじわが過去に、何があったのかと思う。何か嬉しいことが重なって出合ったのか、という要素が加わり、物語が重層性を帯びるところとなつて、それらすべてが、何より眼目である。作者ならでのドラマを楽しみにしたい。

石田 一郎